

# 旧街道における町屋の変化と町並みに関する研究

—栃木県宇都宮市清住町通り旧日光街道を対象として—

正会員 ○ 中岡 進太郎\*  
同 安森 亮雄\*\*  
同 谷風 美樹\*

旧日光街道 町屋 見世蔵 町並み

**1. 序** 旧日光街道の一部である宇都宮市の清住町通りには、明治期から昭和初期に建てられた町屋が残っている。現在は、外形や配置形式を残すとともに、看板の設置土間の改変、蔵の建て替えなど、改築されたものがみられる。またこの通りは2013年に認可された都心環状線の整備に伴う区画整理によって、歩行者中心の通りとなることが計画されており、街道に残る歴史的な建物の保存・再生が課題になると考えられる。そこで本研究では、旧日光街道の将来像を考察するための基礎調査として、通り沿いに建つ町屋の変化と町並みの特徴を明らかにすることを目的とする。

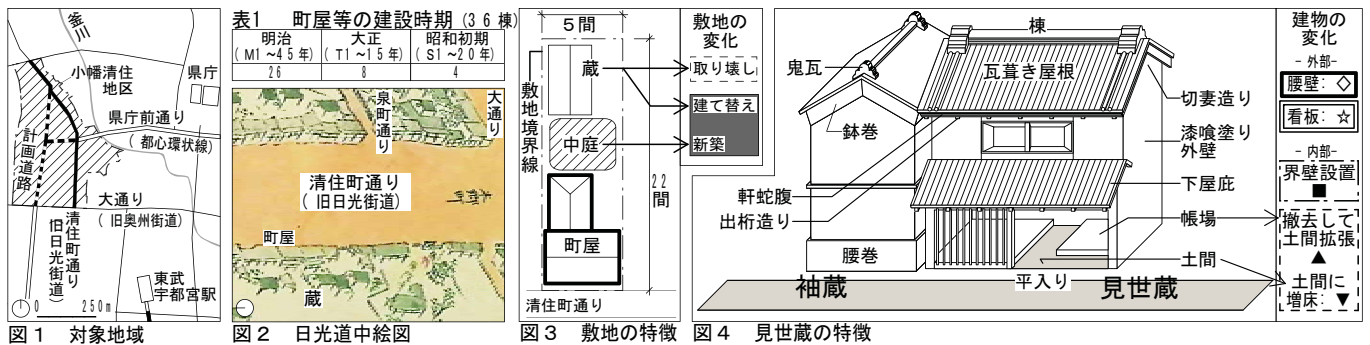
**2. 清住町通り及び調査の概要** 清住町通りは、栃木県宇都宮市中心市街地の西に位置し、旧奥州街道である大通りから北に向かって伸びる旧日光街道の一部である(図1)。本研究では、区画整理が行われる小幡清住地区内の部分を対象とした。通りに面する128敷地に建つ84棟の建物の建設年代を既往の文献<sup>文1,2)</sup>から検討したところ、明治元年から昭和初期(戦前)までの建物(表1)が、22敷地に町屋22棟、蔵が14棟あることがわかった。これらの建物を対象として、建物の実測、写真による記録及び所有者へのヒアリング調査を行った。

**3. 江戸時代における敷地と見世蔵の特徴** 江戸末期(1806年)に描かれた絵図<sup>文3)</sup>(図2)によると、かつて旧日光街道には通りに沿って町屋が軒を連ね、奥に蔵や中庭を設けていたことがわかる。また実地調査で得られたかつての土地台帳から、敷地の形状は間口5間、奥行き22間程度の長方形であり、この形状は現在でも多く残っている。こうした清住町通りの敷地の特徴を整理した(図3)。また町屋の中には、江戸中期ごろから防火性向上のために建てられた土蔵造りの店舗である見世蔵の特徴を持つものがみられたため、その特徴を既存の文献<sup>文4)</sup>をもとに整理した(図4)。見世蔵は、切妻造りの瓦葺き屋根を持つ平入り二階建てで、漆喰仕上である。一階は前面に下屋庇が設けられ、通りに面して全面開放または戸袋を残して全面開放される。また隣接して袖蔵が配置されることがある。

**4. 通り沿いに建つ町屋の変化と町並み**  
**4.1 町屋の変化** 対象とした22棟の町屋について、3章で述べた見世蔵の特徴をふまえて、階数、切妻や寄棟等の屋根形状、外壁の漆喰仕上の有無、長屋の界壁の有無などの構成の概要を整理した(表2、図5横軸)。さらに土間の拡張や床の撤去などの建物内部と、看板や腰壁の設置などの通り側立面における建物の更新(図4)、建物の取り壊しや増築などの敷地の更新(図3)などの町屋の変化を検討した(表2、図5)。

通り全体の町屋の変化をみると、敷地内の建物の更新が約7割(16/22)を占めており、使われなくなった蔵や小屋を取り壊して駐車場にしたもの、中庭に住戸を建設したものがみられた。また土間などの建物内部の改修も同様に過半数を占めており、二階建てでは土間の拡張が多く、平屋建てでは土間に増床したものが多かった。立面の改修に関しては平屋や、軒高が低く通りに面する二階開口を持たないものに看板が設置される傾向がみられた。

これらの傾向をふまえて、町屋の変化を整理した。まず、3章で述べた漆喰仕上の外壁を持つ見世蔵では、床を撤去して土間を拡張したものがみられた(No. 1, 8)。建設当時は床と土間の一体的な利用が難しかったため、改修で土間を広げ一体的な利用を可能にしたと考えられる。このように内部空間は改修によって大幅に変更されている一方で、通り側の立面は一階開口の一部に腰壁を設ける程度で、漆喰仕上の外壁が残るなど、建設当時の形状を保っていた。また敷地が広く複数の蔵の一部を取り壊し、駐車場にしたものや新たに住戸を建てたものがあつた(No. 1, 8, 14)。次にその他の二階建て町屋では、通り側の二階に開口がないものは庇と屋根の間に看板を設置していた(No. 5, 6, 10, 17)。また一階内部に界壁のような内壁を設け、長屋化しているものがみられた(No. 4, 13)。平屋の町屋では、下屋庇を持つ2棟以外はすべて看板を取り付けていた(No. 9, 11, 12, 15, 21)。内部は土間に床を増床したものがみられ、その多くが腰壁を立ち上げていた。これは土



間を部屋として連続させるために床を張り、部屋のプライバシーを確保するために腰壁を設けたものであった。また平屋の町屋だけでは居住空間が足りず、増築したものが見られた。最後に、内部が界壁によって二分された長屋では、屋根以外の部分をそれぞれ別に増改築していた。また二軒長屋のうち一軒を取り壊す改修が見られた (No. 7)。

**4.2. 清住町通りの町並み** 前節で整理した町屋の変化から、清住町通りの町並みの特徴を明らかにする (図6)。まず建設当時の外観を残す見世蔵を有する敷地が、点在している。これらは、清住町通りが歩行者中心の通りになった際の拠点となりうるものが考えられる。また、通りの北部には平屋の町屋が多く、ほとんどが看板建築となっていた。これらは看板を外すことで古い町屋の外観が再生すると考えられる。さらに、敷地内に蔵を有するものが点在しているが、現在は使われなくなって取り壊された蔵もあるため、残っているものについては活用方法を検討する必要がある。

**5. 結** 本研究では、清住町通り沿いにおける町屋の変化について検討した。その結果、見世蔵は内部を大幅に改修

しながらも、外観は建設当時の外形を保っていることや、平屋の町屋には増築と看板の設置が多かったこと等、町屋の変化を明らかにした。また、古い外観を残した見世蔵が通り沿いに点在していることや、敷地の奥に蔵を持つ敷地が見られること等の清住町通りの町並みの特徴を明らかにした。

謝辞：本研究は、日光街道小幡清住地区まちづくり委員会、社団法人栃木県建築士事務所協会、地元住民の方々の協力のもと実施調査したものである。調査協力と助言に対して感謝の意を表す。

**参考文献**

- 1) 宇都宮市役所都市計画課：平成23年都市計画基礎調査データ、2011
- 2) 栃木県教育委員会：栃木県歴史の道調査報告書 第一集 日光道中 日光道中壬生通り 関宿通り多功道、2008
- 3) 日光道中分間延絵図第4巻、東京美術、1987
- 4) 河東義之：見世蔵の普及と「蔵の街」の成立 - 東日本の「蔵の街」における見世蔵の特徴、西和夫：建築史の回り舞台 - 時代とデザインを語る - 所蔵、彰国社、1999

表2 町屋の構成と変化

建物番号/名/建設年	階数	外壁仕上	界壁	屋根型	二階窓	下屋庇	屋根材	一階開口改修	土間	増築	敷地の変化	類型
14 田野茶舗 M0 1 2	2	黒漆喰		切妻	あり	あり	瓦	腰壁設置: ◇				新規建物
1 上野家 M2 0 2	2	黒漆喰		切妻	あり	あり	瓦	腰壁設置: ◇	土間拡張: ▲		取壊し	①
8 たまき M1 0 2	2	黒漆喰		切妻	あり	あり	瓦	腰壁設置: ◇	土間拡張: ▲		取壊し、新規建物	
13 空家(高橋) M1 ~2 0 2	2	白漆喰		切妻	あり	あり	瓦					
3 塚田家 T1 2 2	2	小舞壁→新建材	あり	切妻	あり	あり	瓦		土間に増床: ▼	居室	取壊し	④
7 野嶋、篠崎家 T1 0 2	2	小舞壁→ベランダ: ☆	あり	切妻	あり	撤去	瓦				二階	
22 空家(菊地) M2 4 2	2	小舞壁→ファサード: 看板: ☆	あり	切妻	あり	撤去	瓦					
4 池嶋酒店 S5 2 2	2	トタン		切妻	あり	あり	瓦		土間拡張: ▲			②
13 黒崎事務所 ~M4 2 2	2	板張り→トタン		切妻	あり	あり	金属板	腰壁設置: ◇				
5 青木家 M4 4 2	2	小舞壁→トタン、看板: ☆		切妻	あり	撤去	瓦	外壁設置: ◇	土間拡張: ▲		取壊し、新規建物	
6 飯塚家 M4 4 2	2	小舞壁→看板: ☆		切妻	あり	あり	瓦		土間拡張: ▲		取壊し、新規建物	③
7 池田竹店 S3 2 2	2	小舞壁		切妻	あり	あり	瓦		土間拡張: ▲		取壊し、新規建物	
10 江部家 M2 0 2	2	小舞壁→新建材		切妻	あり	あり	瓦		土間に増床: ▼		新規建物	
18 空家(朴本) T1 4 2	2	不明 →ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	不明					③
17 蔵田家 M3 9 1~2	1~2	不明 →ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	トタン				二階	
16 よしのそば T1 0 1	1	小舞壁→新建材		切妻	あり	あり	瓦		土間拡張: ▲	居室		
20 猪俣家 M4 5 1	1	板張り		切妻	あり	あり	瓦	腰壁設置: ◇		居室		新規建物
9 高橋家 ~S1 1 1	1	小舞壁→ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	瓦	腰壁設置: ◇	土間に増床: ▼	二階		新規建物
12 久我家 S4 1 1	1	小舞壁→ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	トタン		土間に増床: ▼	居室		新規建物
15 京屋 M3 1 1	1	小舞壁→ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	瓦		土間に増床: ▼	居室	取壊し、新規建物	③
21 空家(不明) M4 4 1	1	不明 →ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	トタン	腰壁設置: ◇	土間に増床: ▼			
11 空家(坂本) M1 1 1	1	不明 →ファサード: 看板: ☆		切妻	あり	あり	トタン	外壁設置: ◇		居室	取壊し	

表注) 矢印「→」の左側が建設時、右側が改修後を表す。開口部は通り側立面を対象とした。ほとんどの建物が平入り、木造で、開口建具の材質変更(木→アルミ)、水回りの増築が見られた。

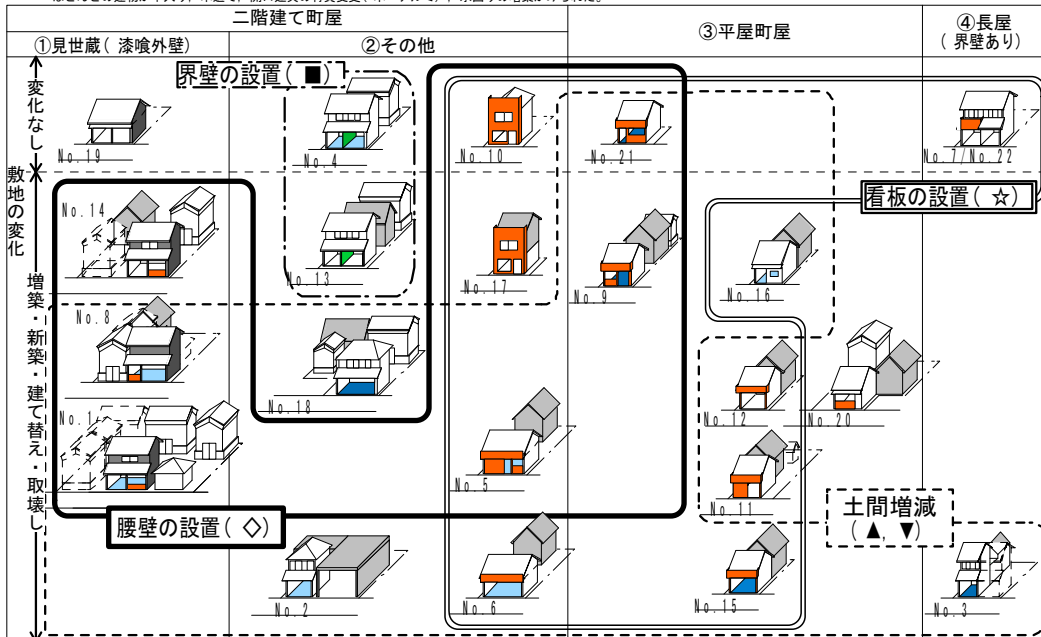


図5 町屋の構成と変化

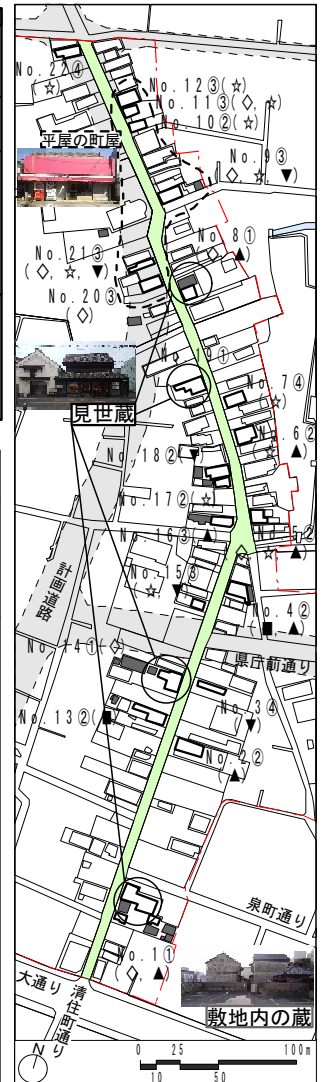


図6 清住町通りの町並み

\* 宇都宮大学大学院工学研究科 大学院生 \*Graduate Student, Graduate School of Engineering, Utsunomiya University  
 \*\* 宇都宮大学大学院工学研究科 准教授 博士 (工学) \*\* Assoc. Prof., Dr. Eng., Graduate School of Eng., Utsunomiya University